

日本民家園だより

特集 年中行事と生きもの

vol.89



砂盛りに飾ったナスとキュウリの牛馬(秦野市の盆行事を再現)

企画展示「民家の暮らしと生きもの」
2018年7月1日(日)~11月25日(日)

「年中行事と生きもの」

一年を通して季節の節目にはさまざまな行事が行われています。それは私たちの暮らしに密接に関わっており、それらの行事や儀礼、祭りのことを年中行事と呼んでいます。

日本民家園では昭和45（1970）年から継続的に年中行事の調査を行ってきました。調査地は、伊藤家住宅・清宮家住宅・蚕影山祠堂の旧所在地である川崎市北部と、北村家住宅の旧所在地である神奈川県秦野市で、報告書として『民家の一年 日本民家園年中行事展示基礎調査』（裏面参照）を刊行しました。

今回はこの報告書を元に、企画展に合わせ、年中行事の中の生きものをいくつかご紹介します。

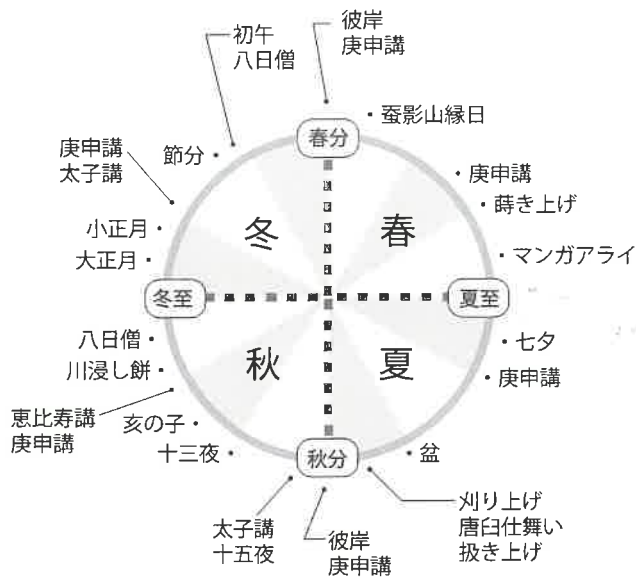


図 一年を通して行われる年中行事
（川崎市北部及び神奈川県秦野市の例）
※時期は地域により異なる場合があります。

小正月には、農作物の豊作を祈るために、米の粉で団子や野菜などの「作りもの」（写真1）を作り、枝に突き刺して立てるモノヅクリという行事があります。その作りものの中には、イノシシやチチウシ（乳牛）、トリなどがあり、人間の暮らしと生きものが密接に関わっていたことがうかがえます。

節分と「イワシ」

節分は立春の前日に行われ、代表的な行事として豆まきがあります。豆まきは災いを象徴する鬼を豆で打って払うものです。

その他に呪術的な儀礼として、豆がらやヒイラギの小枝に、悪臭を発するイワシの頭を刺して魔除けとするもの（写真2）があります。この時、イワシの頭に唾をかけながら「よろず害虫の口を焼く」などと唱えごとをしながら焼くと、五穀に虫がつかなくなると言われていました。焼いたものは厄病除けとして戸口などに挿しておきました。



写真2 ヒイラギにイワシの頭を刺している様子（園内の再現展示）

小正月と「イノシシ」「チチウシ」「トリ」

年の始めに行う公式的・儀礼的な大正月に対して、1月15日の小正月は農耕に関する呪術的なものでトシの神（農耕神）に関係する行事です。



写真1 モノヅクリの中のチチウシ（秦野市今泉）

初午と「キツネ」

初午は2月最初の午の日に行います。この日は五穀豊穡、招福、商売繁盛などを祈願して稲荷神を祭ります。稲荷神は食物の神、農耕の神とされており、初午の日に京都の伏見稲荷の祭神が降臨した故事から、初午の日が稲荷祭となりました。稲荷社でキツネの石像を見かけるのは、キツネが稲荷神の使いとされているからです。

この日は、前日に作った団子を使ってマユダマの飾りつけをして、灯明やお神酒、赤飯と油揚げを入れたわらのツト（写真3）を稲荷社に供えます。

なお、農村では、初午の儀礼は春の耕作のはじめに田の神を山から里に迎えるという意味もありました。

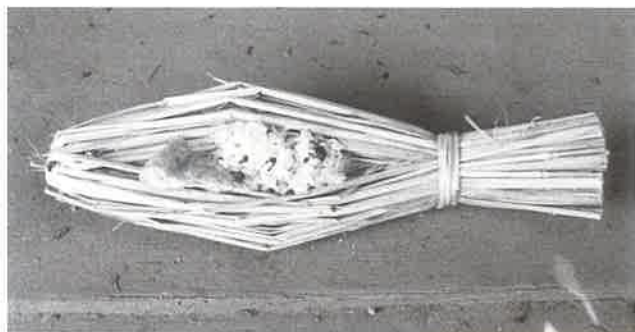


写真3 イナリサマのツト(川崎市麻生区向原)

こかげさん 蚕影山祭礼と「カイコ」

蚕影山祠堂(旧所在地:川崎市麻生区岡上)には、養蚕の神様が祭られています。

麻生区岡上では、昭和時代の始め頃まで、新暦の3月23日には蚕影山の祭礼を行っていました。この日は養蚕講中各家で団子を作り、神棚と蚕影山のお堂に供えます。お堂に供える団子はカシの枝につけて奉納し、祭りの後もそのまま無くなるまで置いておきます。そうすると、これを集めていく物乞いのような人が他の村から来たそうです。この日は67~68軒ある講中が蚕影山に集まってお祝いをしました。

まんが 馬鍬洗いと「馬」

田植えが終わるとマンガアライ(写真4)というお祝いをします。「マンガ」とは、田植えの前に馬にひかせて田んぼの土を柔らかくするのに使う「馬鍬」のことです。

この日は仕事を休んで、田植えに使ったマンガなどの農具をきれいに洗って並べ、田植えが終わったことに感謝し、秋の豊作を祈ります。この日は赤飯を炊いて、ニシンや煮しめを食べました。



写真4 マンガアライ(園内の再現展示)
※馬鍬は左端、写真は多摩区の事例

盆と「馬」「牛」

盆は先祖をはじめ、亡くなった人々の魂をなくさめるために行われる行事です。盆のときには先祖を迎えるための盆棚や砂盛りを作ります。

盆棚の中央にはごごを敷き、本尊と位牌、そして供えものを置きます。その他に、ショウロウサマ(先祖)が乗ってくるための馬と牛を、キュウリとナスにオガラ(麻の皮を剥いたあとの芯の部分)の脚をつけて作り、置きます(写真5)。この馬と牛は、砂盛りや迎え火、送り火を行う場所にも置き、飼葉として、ナスをさいの目に切ってサトイモの葉に盛ったものを供えます。



写真5 ナスの馬と牛(川崎市麻生区千代ヶ丘)

刈り上げと「ドジョウ」

稲が黄金色に実ると、稲刈りをします。その後、収穫と作業の無事を神様と道具に感謝して、「刈り上げ」というお祝いを吉日に行います。

この日は、稲刈りに使った鎌をきれいに洗って並べ、榊を挿したお神酒徳利と、おかゆの中に手打ちの太い生そばを入れてつくる「ドジョウガイ」という料理を神棚に供えました。刈り取りで体が疲れているのでおかゆを食べるのだと言われています。中のそばは、そば粉だけで作るため短く切れてしまう様子や、香りがドジョウに似ていることから、ドジョウガイの名前が付いています。

亥の子と「イノシシ」

旧暦10月の最初の亥の日に、稲の収穫祭として亥の子の神を祭る行事があります。

イノシシはたくさん子どもを産み、多産は豊作に通じることから、農村部に稲の刈り上げの行事として広まり、商人も多産を商売繁盛につなげて祝うようになったようです。

また、この日は農神が畑に帰るともいい、大根畑に入ることを忌んだようです。この日は「大根が首を出す」というところもあります。

亥の子の日にはぼた餅を作って食べました。

(草場結貴)

馬の道具・牛の道具

足を保護するための履物



馬ワラジ／鈴木家資料



ウシノクツ／山田家資料

エサ用の入れもの



ウマノタライ／菅原家資料



カイバイレ／江向家資料

荷物を運ぶときに乗せて使う道具



ウマノクラ／工藤家資料



ウシノクラ／工藤家資料

《刊行物のご紹介》

シリーズ暮らしと家2 『民家の一年 日本民家園年中行事展示基礎調査』

発行日：平成30(2018)年3月31日

編集発行：川崎市立日本民家園

価格：600円



日本民家園だより vol.89 発行：平成30(2018)年7月1日

川崎市立日本民家園 URL <http://www.nihonminkaen.jp/>

〒214-0032 川崎市多摩区栴形7-1-1 TEL 044(922)2181 FAX 044(934)8652

交通 小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [3～10月] 9時30分～17時 [11～2月] 9時30分～16時30分(入園は閉園30分前まで)

休園日 毎週月曜(祝日の場合は開園)、祝日の翌日(土・日曜の場合は開園)、12月29日～1月3日

10月10日☎は臨時休園(10月9日☎は臨時開園)

入園料 一般500円、高校・大学生300円、65歳以上300円(川崎市在住の方無料)、中学生以下無料